



六甲カトリック教会 教会報

2023

11

No. 623



ともに歩む教会—どこに向かって、誰とどのように—

主任司祭 英 隆一朗, s. j.

この10月には2つの重要なことがありました。

1つめは、通常シノドス第16回総会-第1会期が10月4日から29日までありました。この巻頭言でも何回か言及してきましたが、この教会報が出る頃には第1会期が終わっています。実際の話し合いに使われたテキストは、『討議要項 Instrumentum Laboris』です（邦訳あり）。改めてこの文書を読んでみると、今回のシノドスは特定の課題について話し合うのではなく、教会全体のあり方そのものを問い直すものです。いわば、ミニ公会議という様相を呈しています。話し合いの結果がそのうち発表されるでしょう。細かい内容よりも、結局何が問われているのか。自分なりにまとめてみると以下の2つの問いです。

①ともに歩むシノドスの教会は、どこに向かって歩んでいるのか。

②ともに歩むシノドスの教会は、誰と、どのように歩むのか。

この2つの問いに集約されているように見えます。①例えば、六甲教会はどこに向かって歩んでいるのか、今一度皆さんも自問してみましょう。歩みとは、ゆっくりだが動的な動きで、目的地があります。それは私たちにとって何か。②信者としての私は、誰とどのように歩んでいるのか。1人だけの信仰生活は実のところありえません。信仰生活はいつも誰かとともに分かち合われるものです。ともに歩む教会のメンバーはいったい誰なのか。単に活発に活動する信徒だけでなく、貧しい人や苦しんでいる人もともに歩んでいるかどうか。誰かとともに歩むことは難しさと喜びがいつもあります。このような2つの問いかけを共同識別しながらこれからともに歩んでいきたいです。なお、11月23日に教区主催の集まりがあります。興味のある方はご参加ください（要予約）。

2つめは、10月9日（月）に大阪高松大司教区設立ミサが行われました。この日から、旧大阪教区と旧高松教区が消滅して、一つの大阪高松大司教区となりました。

旧高松教区は信徒数4,000人あまりの小さな教区でした。諏訪司教の引退後、新しい司教が選ばれることなく、新教区設立となりました。地方都市の衰退という背景があり、信徒や司祭の高齢化などから財政的にも实际的にも自立した教区として歩むことが困難だと判断されたのでしょう。新大司教区設立の背景には、日本の教会全体の弱体化があります。それを受けて立つ新教区は大きな課題を背負っていると言えるでしょう。

私としては、旧大阪教区にビジョンであった「新生計画」は教区民にとって大きな宝だと思っていましたが、このビジョンも消滅しました。新しい教区として、新しいビジョンが必要とされています。つまり、①新しい教区として私たちはどこに向かっていくのかが問われています。狭い日本とはいえ、かなり広い地域になります。信徒が一堂に会するには日帰りの集まりが困難になりました。②四国の信徒とともに具体的にどのように歩みを進めていくのかも大きなチャレンジです。六甲教会だけならば、大きな変化に見えないでしょう。しかしながら、日本社会と日本の教会が変わっていく中で、①と②の問いかけを受けとめながら、新しい教区のメンバーとして歩んでいきたいです。

この2つのことを念頭にともに歩んでいきましょう。

《 典礼奉仕者の集い 》

10月1日イグナチオホールに典礼奉仕者が集まり、「新しい日本語式文の典礼について」をテーマに分ち合いを行い、生じた疑問点について英主任司祭から回答、コメントをいただきました。

2022年の待降節第1主日ミサから変更・実施された新しい日本語式文は、『ローマ・ミサ典礼書』ラテン語規範版第3版に基づくもの。典礼がわかれば変更の意味もわかるとして、英主任司祭は、すでに全会衆に頒布されている「ミサ式次第」（会衆用簡易版）での、赤字部分に変更のポイントがあるとされ、たとえば会衆の動作について、「礼をする」部分が揃っていないことなどが指摘されました。英主任司祭の講話のあとは8つの小グループに分かれて、①変更や追加のあった文言、②ミサ曲Aについて、③自身の奉仕の疑問点等についてなど3つのテーマで分ち合いを行いました。各グループの分ち合いの内容から、たとえば①では拝領前の信仰告白の文言（・・・お迎えするにふさわしい者ではありません・・・）にどこか違和感がある、という報告が複数上がったが、これらはラテン語により忠実な訳になったためと解説されました。またお告げの祈りについては、鐘の音と同時に「主のみ使いのお告げを受けて・・・」と唱えるものなので、「父と子と聖霊の御名によって」はここでは唱えないとされました。信仰宣言では使徒信条とニケア・コンスタンチノープル信条のいずれを唱えてもよいことになっていて、六甲教会では両方を用いているが、教会によっては後者のみを唱えているところもあるので、両方を知っているのがよいだろうなど、英主任司祭から逐一回答・コメントをいただきました。集いのあとは主聖堂に移動して、聖歌隊有志によるミサ曲B、Cのデモ演奏を聴いて散会しました。

《 ロボアム・ティエリ神父様の学習会 》

10月8日（日）社会活動部主催の学習会がイグナチオホールで開かれました。テーマは「もういちど環境問題を根っこから考える」ー貧乏人の知恵袋を開くーでした。参加者87名。このテーマに対する関心の高さが窺われました。

ロボアム神父様は2020年春から4年間、東スリランカに赴かれ、環境問題に取り組んで来られました。その貴重な経験を映像を通してお話下さいました。大切なのはその国の言葉や文化を尊重し、貧しい人々と共に歩む事。野菜や植物の種を渡して収穫した事。手作りエコバッグの制作を推奨した事などを紹介されました。又、援助が害になる事もあるとも話され、お金ではなく、貧しい人々の生活が改善され、向上するような小さな一歩を進める事が大事だというお話でした。

独特の世界観を展開して下さいましたロボアム神父様のお話は難しい所もありましたが、密教の黙化（自然に感化）と不害（他者に害を与えない生き方）という言葉は印象に残りました。環境問題から人の在り方の根本にまで触れられた学習会でした。参考文献として紹介された「貧乏人の経済学・もう一度貧困問題を根っこから考える」（バナジー&デュフロ著）を読みたいと思います。（塩飽 博美）

チャリテバザー 11月12日(日) 10時ミサ後 11::00～15:00 開催

当日は混雑が予想されるので車の使用はお控え下さい。

所定の台数を超えた場合は、駐車できません。

（地区会 井川 直哉）

《 教会遠足（10月21日） 》

秋晴れの土曜日、朝9時に集まった31人はまず、小聖堂でのミサに与りました。同行の英神父さまから、旅路が平安であるように祝福をいただき出発。

週末ゆえに渋滞気味の道を一路淡路島へ。11時前に、県立公園・淡路「花さじき」に到着しました。小高い丘の上から一望できる大阪湾。眼下にはコスモスなど一面の花盛り、赤や黄色、白など、花でくっきりと区切られた広々とした花壇が見事でした。30分ほど景色を堪能した後、少し道を戻ってランチの場所「オーベルジュフレンチの森」へ。オーベルジュとはステイ（宿泊）も出来るレストランと言う意味のフランス語です。森の中に3棟の建物が並び、真ん中の棟がレストランになっています。お洒落なランチコースをいただきました。食事の間に、若いオペラ歌手たちが椿姫やカルメンなどのアリアを素晴らしい声量で披露。拍手と喝采を送りました。ゆっくり2時間ほどの昼食時間を取り、広いテラスで記念写真を撮り、今度は大塚国際美術館へ。ここでもたっぷり時間を取り、館内を各自ゆっくりと巡ることが出来ました。美術館はことしオープン25周年の記念の年ということで、来館者でにぎわい、また展示作品も以前より増えている様子でした。帰途は淡路ハイウェイオアシスというSAで、お買い物タイム。つるべ落としの秋の夕暮れ、とっぷり暮れた明石海峡を渡って無事教会に帰着しました。壮年会長・小田さん、婦人会長・藤井さんのご尽力とお世話に感謝いたします。楽しい一日でした。（広報部 詫 洋一）



今月の聖人 第40回（最終回） イエズス会のすべての聖人・福者

11月1日は諸聖人の祝日ですが、イエズス会は11月5日にイエズス会のすべての聖人・福者をあらためて記念しています。イグナチオ・ロヨラやフランシスコ・ザビエルなど独立して記念日が設けられている聖人も、この日は合同の記念とされます。イエズス会は「靈操」をその規範とし、世界各地に宣教活動を行い、また教育活動に力を入れてきました。とくにアジアに目を向けたイエズス会の宣教活動は我が国に大きな影響を及ぼしました。宗教改革以降のカトリック復権の歴史を戦ってきたこと、全世界に活動を広めて来たことなどの実績を示すイエズス会。偉大なイエズス会の聖人・福者をまとめて記念するというイエズス会独特の自負のあらわれと言えるのではないのでしょうか。11月は諸聖人の祝日（1日）、死者の日（2日）、そしてイエズス会すべての諸聖人の日（5日）があるということをイエズス会の教会の信徒として覚えておきましょう。（詫 洋一記）

「今月の聖人」は2020年8月から連載を始め、今回でちょうど40回を迎えました。この機会に最終回とさせていただきます。第1回は「聖母マリア」でした。いろいろな書籍や文献を参考にしながら、私の個人的な想像も交えて記してきました。事実誤認や思い違いなどがあれば筆者の責任ですので、署名入りで書かせていただきました。英神父さまが主任司祭として赴任されてから、イエズス会の聖人を中心に書いてみたら、と助言を頂戴し、参考文献『イエズス会の聖人・福者のプロフィール』イエズス会日本管区発行2010年版、を拝借して、以後大いに参考にさせていただきました。そのため後半はほとんどイエズス会の聖人を取り上げています。長い間ご愛読ありがとうございました。（詫 洋一）

『野の花を見よ』

(マタイ 6 章 28 節 ルカ 12 章 27 節)



まだ小学校へ行く前の幼いころ、家の玄関にこの言葉が書かれた立杭焼の皿が飾ってあった。父に連れられて教会学校に通っていた篠山教会（日本基督教団）の牧師の先生が書かれたものだった。「野」の字は古い「埜」の字を、しかも崩して書かれており、近所の子供がそれを「型（カタ）の花を見よ」と読んだので、父はその子に正しい読み方と意味を教えていた。来客は誰もこの皿を話題にしなかったので、とてもうれしそうに話していたのを覚えている。

それから長い年月を経て、20 年程前に宝塚教会に所属していた頃、主任司祭（当時）の岸神父が、説教の中で、この言葉を間違って解釈している人たちを大いに批判したものだ。

「野の花を『小さいもの』として憐れんでいるが、自分たちは『大きいもの』として見下してはダメだ。自分たちも神様の前で『小さいもの』という慎みの気持ちを持たなくてどうする。」

なるほど、その通りだ。それ以来、この言葉を見聞きした時、また聖歌で歌う時、栄華を極めたソロモンよりも着飾った野の花を羨ましいと思い、自分自身が小さいものに過ぎないという畏れと謙虚な気持ちを、都度、胸に刻むのだ。

フオンさんの六甲ダイアリーより（2）

黙想とは、一時的に街の喧騒から離れ、普段の生活の会話や電話などから離れて、特定の場所で静かな祈りの空間に入る時間です。そこで私たちは自分自身と出会い、神様と出会うこととなります。聖書にあるとおり、イエス様は福音を宣べ伝える使命を始める前に、砂漠で 40 昼夜沈黙の中で祈り、誘惑に打ち勝ったのと同じように、私たちも教会での生活から離れて、神様との関係に進むように奨励されています。神様とともに、福音の教えに従って自分の生活を秩序づけるようにします。

今年参加した 8 日間の黙想は広島市長束にある、“黙想の家”で行われました。私は 3 人のベトナム人修道女たちと一緒に参加し、高山 親神父様（写真後列中央）の黙想指導を受けました。

当日の広島は、とても良い天気で周囲の景色を眺めると祈りに入りやすくなると感じました。

一日 3 回黙想指導を受けて祈り、また、それ以外に少なくとも 4 回の黙想の時間に祈りました。今回のおもな祈りのテーマとは、3 誓願の清貧、貞潔、従順と修道者と関連するものです。さらに、修道生活に関するさまざまな課題を考えて祈り、どのようにして充実、かつ喜びに満たされるような修道生活が得られるかなど、とても大事な祈る種ともなりました。最終日のミサの中で、私はご聖体の前に自分の神様への誓いを更新することを願いました。今回の黙想は自分にとって本当に恵



みの時間となりました。このような神聖な時間を与えてくださった神様に感謝しました。これは、私のアイデンティティが固まり、3 誓願を生きることによってイエズス会の会員であることを自覚しました。今回の黙想は、自分と神様がより深く結ばれ、自分の心を改めていくのに大いに助かるようになりました。そして、何よりも、すべての人の救いという究極目的を果たして、神様のみ名をより多くの人々に知らせるよう努めていきたいと願っております。

(Hoang Cong Phuong, S. J.)

新ボランティアグループの紹介



はじめまして、**AIC-Japan 神戸**です

社会活動部のボランティアグループの新たな一員となりました AIC-Japan 神戸です。バザーやイグナチオ喫茶に入れて頂く予定です。

これからどうぞよろしくお願いいたします。

AIC（国際愛徳協議会）は、約 400 年の歴史を持つボランティア団体で、日本では愛徳姉妹会のシスターが中心となり 1999 年に神戸、翌年和歌山に AIC が誕生しました。

AIC-Japan 神戸はインド、フィリピンの子どもたちへの教育支援(写真右上)、ラオスでの井戸掘り、給水パイプの整備支援等を続けてきた他、この春から新鮮で安全な野菜を炊き出し等へ少しでも提供できれば、農作業を通して世代を超えた交流ができればと、伊川谷駅近くに小さな畑を借りて、自然の力を活かした作物づくりを始めました。(写真左下)



©NPO AIC-Japan



例会の参加者が 3～4 人という小さなグループですが、AIC の精神、「土台は信仰です」に忠実に、教会と共に歩む NPO（非営利団体）として、また、次世代が刈り取るための一粒の麦としてありたいと願いつつ、与えられたひとつひとつの課題に向き合っております。

倒れそうになったとき、灯された火を消さぬよう守ってこられた先達の努力を思い、共に荷を負う友、代わって荷を負ってくれる友がすぐ横に居てくれるのは大きな喜びで、ここにも「聖徒の交わり」をそのまま宣言できる集いがあります。どうぞ例会や農作業の見学にいらしてください。(マリア 堺 夕希子)

クリスマス チャリティーコンサート 4 年ぶりに開催

◇12 月 2 日（日）12:30 開場 13:00 開演

◇カトリック神戸中央教会 主聖堂（入場無料）

◇主催：神戸地区社会活動委員会（シナピス神戸）



野宿者、生活困窮者のために活動されているカトリック社会活動神戸センター支援のためのチャリティーコンサートです。このコンサート出演者はボランティアで、ジャンルは、ジャズ、ポップ、クラシックなど様々。当教会からは、村田さくらさんが初出演されます。神父さまバンドもあります。みなさん、ぜひお楽しみください。

◆社会活動部 今月の予定

11 月 12 日（日）11 時～15 時 バザー 第 3、第 4 会議室にボランティア支援グループ出店

11 月 20 日（月）9 時 30 分 ともしび会 台所（児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り）

*11 月の炊き出しは、バザー前日のため、お休みです。

≪ 図書室からのお知らせ ≫

10月までに入った図書

★貧乏人の経済学

A. V. バナジー/E. デュフロ著 みすず書房

「もう一度環境問題を根っこから考える」(10月開催の社会活動部の学習会ロボアム神父様の講話のテーマ)の参考文献。貧乏人の知恵袋を開く。

★西方キリスト教の女性

「キリスト教と女性」研究会編 教友社

その霊的伝承と画家の伝統。

★ライフスタイルの転換に向けて、ともなる歩みを 「回勅ラウダート・シ」と環境保護

私の暮らし方を変える。周りのみんなと 地球の未来のため。 吉川まみ著 女子パウロ会

★使徒信条の歴史

本城仰太著 教文館

私たちが礼拝で告白している使徒信条はどのように成立し、用いられてきたのか。

★「日本の民話」世界文化社 19冊、「しあわせ」女子パウロ会の絵本等4冊

その他の3冊と合わせて教会の信徒の方々から図書室にと頂きました。子供コーナーに入れてあります。教会学校の皆さんに読んでいただけたらと思います。

*2階 図書室から処分された本について

教会図書室から「除籍」の印判を押して整理した本が、11月12日(日)の教会バザーで第5会議室に並びます。どれも1冊100円(予定)で売りだされます。

この時に売れ残ったものについては、信徒会館1階の書棚(これまでCD・DVD・テープコーナーのスペース)へ運ばれて、並べられることになります。そしてお持ち帰り可能にする予定です。

*この他のことについても、お気付きのことやご希望などがありましたら、図書室入口横にある投書箱にてお知らせください。書籍等の寄贈はお名前をつけて事務室にお預けください。

≪ 秋の黙想会 ≫

10月28日土曜日、「聖イグナチオの霊性の基本を学ぶ②」をテーマに、10時から15時まで、『秋の黙想会』(宣教・養成部主催)が行われました。同テーマによる学びの講話と黙想は、春・秋の年2回、3年間にわたり全6回行うとしており、今回はその2回目。前回と同様90人近くの信徒が集った黙想会は、途中で昼食と休憩を挟みながら、1回につき30分の講話と30分の個人黙想を4回、終始沈黙を守って行われました。指導は英隆一朗主任司祭。

「六甲教会の祈り」はイエズス会の聖イグナチオの霊性を学ぶもの。これを深めていきたいとする英主任司祭は、その第一講話で、この霊的エクササイズで自分の生き方を見直し、ふりかえり、神さまからどれほど大きな恵みを戴いているかを考え、自分が何を大切にしているか、根本的に考えてみようと言われ、黙想に入りました。[参考:ガラテアの手紙(3;23~29、4;1)]。第2講話では、すべての被造物に対して偏らない心「不偏心」を持たなければならないとして、社会の価値観にとらわれず、神の子として神様に愛されていることを知り、とらわれのない自由な心に近づくようにとお話しされました。そして、どんな時、そのような心持ちになったかを考えて黙想するとよいとされました。[同上(5;1~5;15)]。第3講話のテーマは「罪の考察と観想」。霊的に成長するためには自分の罪深さに気づき、認めること。私(達)の罪のために十字架につけられた主キリストを見て、心に浮かぶことを言い表し、イエスさまと対話するようにと促されました。[同上(5;16~22)]。第4講話ではルカ福音書の「放蕩息子」のたとえが引用されました。この中で弟＝「放蕩息子」の帰還を喜ばず、その祝宴に加わらない兄については、神のあわれみの心を学ばず、悔い改められない、その罪を神は悲しんでいるとされました。一見正しい兄の主張もその正しさを追及すると愛がなくなるという例でした。(ルカ福音書15;11~24)。次回第3回は2024年春(日時未定)です。(六甲教会SNSチームは、黙想講話をyoutubeで配信しています。)

六甲春秋 いと小さき者・イエスにした事は

11月26日、私たちは盛大に「王であるキリスト」を祝う。典礼暦年の終わりを画する記念すべき日。この一年に頂いた数々の恵みを感謝し、来年に向けて決意を新たにする日である。この祝日は、1925年12月11日にピオ11世によって制定された。主イエスが再臨し、神の支配が到来して救いが完成するようにとの願いが込められている。だから今日からは怠りがちの祈りに励み、たえず聖書に親しむように心掛け、なんだかんだと自分を正当化して日曜のミサをサボらぬように努めようか等々、あれこれ殊勝な決心を立てて満足しているかもしれない。確かにどれも大切ではあるが、今日の福音は私たちにもっと別の行動、外向きの難しい心構えを求めているようだ。

王であるイエスキリストは私に、何を、どうすることを求めておられるのか。食物のない飢え、飲物のない渇き、何処にも泊まるところのない宿無しの悲哀、身を装い包むすべのない裸の恥ずかしさ、回復の見込みのない病苦の重さ、牢獄に放り込まれた負目、これらは何れも私たちの歩みや体験の中にはまず無いのではないか。しかしながらイエスが現に歩んだ十字架への道のりはどうだったのか。その多くの悲哀と苦しみを自ら味わわれたのではないのか。また多くの国や地域では、残念ながら人々の避け難い現実であるのかもしれない。その意味では、私たちが余りにも恵まれ過ぎているため、貧しく虐げられた人の痛みや辛さに鈍感になっている。

26日の福音の或る解釈によれば、「いと小さき者」とは社会から見放されたキリスト者を意味しており、互いに助け合いと

労わり合いが特に勧められていると理解する。また人助けの度毎にイエスが方便のように使われ、見放され苦しむ当人ではなくただイエス様の為に、というのであればそれも合点がいかない。

仲介業者に多額の費用を払い、ベトナムから渡航した若い多くの技術研修生たちは、“3K”の劣悪な労働やあるいは単純労働を強いられ、本国の家族に仕送りが続いている者、さらにはコンビニで徹夜で働いている人さえもいる。そして不景気で解雇されるやいなや収入は途絶え社員寮からも追い出され、一挙に生活のメドを失ってしまう。時には、犯罪にも手を染める場合もありそうだ。しかし日本に来て困窮する人々はベトナムに限らず、韓国、中国やフィリピンの諸国にも及んでいる。そうした小さな貧しい虐げられた兄弟姉妹に、イエスに対するかのように親身に助け関わることはどんなに難しいことか。たちまち言葉や文化や伝統の壁が立ち上がるのだ。

そこで自分の都合や物差しを最優先するようではすれ違いにおわる。単なる同情や自己宣伝ではなく、相手が（彼・彼女）いつ現れても、何かを訴え求めているのに応じて、私は身内として仲間としてイエスと一緒に、喜んで助ける心構えを持ちたいものだ。まさに相手次第のフレキシブルな対応が求められ、いつも私に出来ることを喜び勇んでやる応需性、つまり相手の求めに機敏に応える心の自由さや寛大さが求められる。ここにこそ神の救いと裁きとの道がいつも開かれ、絶えずイエスによって私たちは求められ問われている。

合掌 中村健三

お知らせ：10月号に東ティモール・イグナチオ学院の浦 善隆神父からの上智大学卒業の二人の留学生への支援御礼を掲載しましたが、さらに同学院基金への寄付についても御礼状が届きました。

2つのお手紙は、11月12日開催チャリティーバザーの会場等で掲示する予定です。学生達を支援をしている皆様、今後支援したいと考えておられる皆様、ぜひお立ち寄り下さい。（広報部）

【2023 年 11 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 (祝)	4
			諸聖人 ミサ 7:00 10:00	死者の日 ミサ 7:00 10:00	初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 ◎灘南・神戸西	◎土曜班
5	6	7	8	9	10	11
年間第 31 主日 手話付きミサ 10:00 秋の墓参				ラテラン 教会の 献堂	◎灘西・中央	教会学校休み
12	13	14	15	16	17	18
年間第 32 主日 チャリティー バザー 11:00					◎東灘北 1	
19	20	21	22	23 (祝)	24	25
年間第 33 主日 貧しい人のための 世界祈願日 七五三祝福式 10 時ミサ中 小教区評議会 11:30	三日月会 例会 10:00			教会受付 休み	◎東灘北 2・ 芦屋	
26	27	28	29	30		
王であるキリスト 世界青年の日 こどもとともに 捧げるミサ 10:00 クリスマス飾り付け 10 時ミサ後	◎定期清掃			聖アンデレ 使徒		

◎は掃除当番地区（悪天候により朝 7 時の時点で警報等の発令があれば清掃は中止とします）。

【編集後記】

秋の黙想会に与りました。第二次世界大戦のアウシュビッツで身代わりの餓死刑にあったコルベ神父さまは、状況に惑わされず「不偏心」をもち、死に直面しても、司祭としてとらわれない自由な心で愛に基づいて選んだ生き方だったと学びました。生前の厳しい表情の写真を手帳に大切に持っています。(N.O.)

・次回 12 月号の発行は 12 月 2 日(土)です。
原稿は毎月 15 日ごろまでに、教会受付へ直接
ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致します。
(renraku@rokko-catholic.jp)
皆さまからのご寄稿をお待ちしています。
・教会 SNS チームは、フェイスブック、Instagram
ム、X(旧ツイッター)、YouTube チャンネルで配
信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみ
てください。

六甲カトリック教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電話 078-851-2846

FAX 078-851-9023

<http://www.rokko-catholic.jp>

発行責任者 英 隆一朗

編 集 広 報 部